



外務省 ODA 広報キャラクター ©DLE ODAマン

教えて！外務省！

知っておきたい国際協力 Vol.24

2025年8月に開催される第9回アフリカ開発会議（TICAD9）に向けて準備を進める3人が、アフリカ在任中に感じたことやTICAD9のポイントについて解説します。

答え
くれた人

左から
アフリカ開発会議事務局
(TICAD事務局)
川津晃平さん
Kawabata Kohei
稲葉真奈美さん
Inaba Manami
檜垣壮太郎さん
Higaki Sotaro



TICAD9事務局で勤務中の3人。全員アフリカ在勤経験（左から順にケニア、ベナン、アンゴラ）があり、各自のユニークな経験を活かし、8月に横浜で開催されるTICAD9を盛り上げるために奮闘している。

今月のテーマ TICADに向けて

Q アフリカ在任時に現地で感じたことは？

A 技術導入の迅速さや、「もったいない」に通じる考え方など、あらためて学ぶことがあったと感じました。

私たち3人は、現職の前にそれぞれベナン（稲葉）、ケニア（川津）、アンゴラ（檜垣）に赴任していました。各地域による違いはありますが、実際に現地で暮らしてアフリカのイメージが変わるような驚きや発見がたくさんありました。

たとえばベナンでは、新型コロナウイルス感染症が猛威を振っていた2020年、政府は公式にPCR検査の事前支払い用サイトを立ち上げ、支払い後は電子証明書を発行、それを

接種会場で見せることで受け付けをしてもらえる体制をつくりました。こうした電子決済システムをはじめ、社会インフラへの技術導入の素早さは感銘を受けました。

また、一つのことを長く大切に使う点は、日本での暮らしや価値観を見直すきっかけになりました。金銭的な理由でやむを得ない面もあると思いますが、現地の方は車やバイクが故障しても修理を繰り返し、ポロポロになるまで乗り続けています。食の面でも「恵み

の食材を余さずいただく意識」が強くあり、市場で魚をさばいてもらう際は、おろした身だけでなく当然のように頭と尾ヒレの部分も含めて渡してくれます。こうした文化は、日本でも古来から伝わる「もったいない精神」に通ずるものだと思います。もちろんアフリカと日本では、経済状況も文化的な背景も異なりますが、アフリカで実際に暮らしてみても日本について考えることがたくさんありました。

Q 日本とアフリカはどんな関係なの？

A 「支援する側とされる側の関係」から「ともに成長していく関係」に移行してきています。



2023年8月にケニアのナイロビで開催されたアニメや漫画のファンのお祭りでは、現地の人々がキャラクターのコスプレをするなどして盛り上がりを見せていた。

アフリカは日本から距離が離れていることもあり、共通点を想像しにくいところがあるのではないかと思います。ですが現地では街で目にする車の多くが日本車で、漫画やアニメなどの日本のポップカルチャーは広く親しまれています。現地の方と話した際は、日本に対する憧れやポジティブなイメージをとて感じました。また、アフリカの政府関係者との会合や閣僚級の面会の場などでは、必ず日本への感謝から始まります。これまで続けてきたODAが二国間のよい関係の礎になっていることは間違いありません。

これまで日本とアフリカは少なからず「支援する側」と「される側」という形の関係でしたが、近年は日本とアフリカがともに成長

していくパートナーの形へと変わってきているのが特徴です。54か国から成るアフリカは国際社会において存在感が大きくなっており、共創しながらよりよい関係を築くことは日本にとっても重要です。

たとえば、日本のスタートアップ企業によるアフリカでの起業が一つの例です。アフリカが抱えるさまざまな課題のなかには、日本の課題に通じるものも。つまりアフリカで課題解決に貢献したビジネスを、日本でのビジネスチャンスにつなげることも可能です。日本としても、アフリカへの企業誘致に力を入れていきたいと考えており、日アフリカ間におけるWin-Winの関係はさらに強めていけると確信しています。

Q TICAD9で目指していることは？

A 国際社会が抱える課題の解決策を日本とアフリカでともに創り上げていきます。

TICADはアフリカの開発をテーマとする国際会議です。1993年の第1回開催から日本の主導により国連、国連開発計画、アフリカ連合委員会、世界銀行と共同で開催しています。今年8月には9回目のTICADが横浜で開催されます。

TICADには、途上国の自助努力を積極的に支援する「オーナーシップの尊重」と、国際機関やNGOなど多様なアクターと協力していく「パートナーシップの推進」という基本理念があります。また開催初期は「アフリカの貧困を撲滅する」といった支援の側面が強かったのですが、近年ではアフリカの自らの発展を後押しすることで、真の経済的自立に

つなげるテーマの比重が大きくなっています。今回のTICAD9でも「アジェンダ2063」（2063年までに実現すべきアフリカの長期開発目標）などアフリカが自ら進める取組を後押ししながら、日本や国際社会とともに課題解決に向けて共創していくための議論を行う予定です。具体的には、日本企業の技術を利用した課題の解決に向けた施策、未来を担う若者がもつ可能性への投資などについて話し合っていきたいと考えています。

今回のTICAD9は6年ぶりの日本開催になります。アフリカだけでなく国際社会からの期待も大きく、アフリカ各国をはじめとするさまざまなステークホルダーと協力していき

たいと思っています。

またTICAD9を一つのきっかけとして、日本の多くの方に「今のアフリカ」について知ってもらえる機会も提供していきたいと考えています。外務省ではそのための情報発信を行ったり、企画を準備したりしていますので、ぜひTICADの公式Xなどをチェックしていただけたらうれしいです。

「TICAD9」について

「TICAD9」の情報については、TICADの公式X（左のQRコード）をご確認ください。



公募によって選ばれたTICAD9の公式ロゴ。横浜の海の青とアフリカの各国が国旗に掲げる緑を混ぜ合わせた碧色を使用。

2024年8月、東京で開催されたTICAD閣僚会合の歓迎レセプションの様子。会合に出席したアフリカ各国の大臣らに伝統的な日本の盆踊りが披露され、交流が深まった。